

令和8年2月9日（月）
於：東京消防庁芝消防署4階
（対面/Web併用方式）

令和7年度東京都住宅防火対策推進会議（第2回）次第

- 1 開 会
- 2 防災部長あいさつ
- 3 議事 「消火器による初期消火率の向上方策について」
- 4 事務連絡
- 5 閉 会

【 配 布 物 】

- ・ 令和7年度 東京都住宅防火対策推進会議 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 推進会議資料

令和7年度 東京都住宅防火対策推進会議 委員名簿

(順不同)

	氏名等	所属職名等
委員	水野 雅之	東京理科大学 大学院 創域理工学研究科 教授
	加藤 大和	NHK解説委員
	小川 和江	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 地域福祉部長
	舟山 仁一	一般社団法人 日本消火器工業会 常務理事
	志賀 明	日本消防検定協会 消火・消防設備部 消火設備課長
	光田 毅	東京電力ホールディングス株式会社 経営企画ユニット総務・法務室 防災グループ マネージャー
	大塚 フジエ	新宿防火防災女性の会 会長
	吉成 武男	東京都町会連合会 会長
	宮崎 静子	東京都町会連合会 常任理事
	北芝 智捺	板橋消防団 消防団員
	門田 彩	東京都 政策企画局 戦略広報部 戦略広報担当課長
	萩原 幸太郎	東京都 総務局 総合防災部 防災計画課長
庁内	◎久貝 壽之	東京消防庁 防災部長
出席者	田中 智子	東京消防庁 参事兼防災安全課長事務取扱
事務局		東京消防庁 防災部 防災安全課

◎は主宰者を示す

令和7年度（第2回）東京都住宅防火対策推進会議 席次

令和8年2月9日（月）
東京消防庁 芝消防署 4階
対面／Web併用方式

東京理科大学 大学院
創域理工学研究科
教授 水野 雅之

主宰者
東京消防庁 防災部長
久貝 壽之

NHK 解説員
加藤 大和

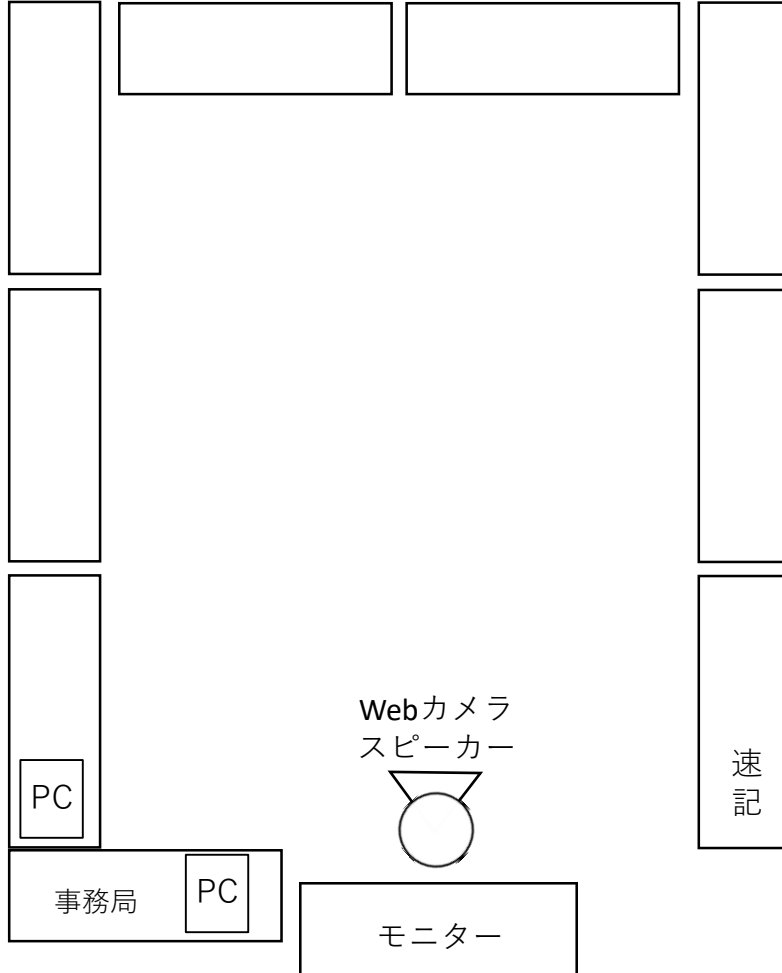
一般社団法人
日本消火器工業会
常務理事 舟山 仁一

東京都 政策企画局
戦略広報部
戦略広報担当課長
門田 彩

東京都 総務局
総合防災部
防災計画課長
萩原 幸太郎

東京消防庁 参事
兼 防災安全課長
田中 智子

事務局



東京都町会連合会
会長 吉成 武男

東京都町会連合会
常任理事 宮崎 静子

新宿防火防災女性の会
会長 大塚 フジエ

板橋消防団
北芝 智捺

速記

聴講席

聴講席

Web参加者

- 東京電力HD
経営企画ユニット
総務法務室防災グループ
マネージャー 光田 毅

出入口

令和8年2月9日（月）

消火器による初期消火率の向上方策について

令和7年度 東京都住宅防火対策推進会議

【東京消防庁 防災部 防災安全課】

本日の予定

(1) 第1回会議からの動き

(2) 議事

「第1回会議の意見等を踏まえた
消火器による初期消火率の向上方策について」

本日の予定

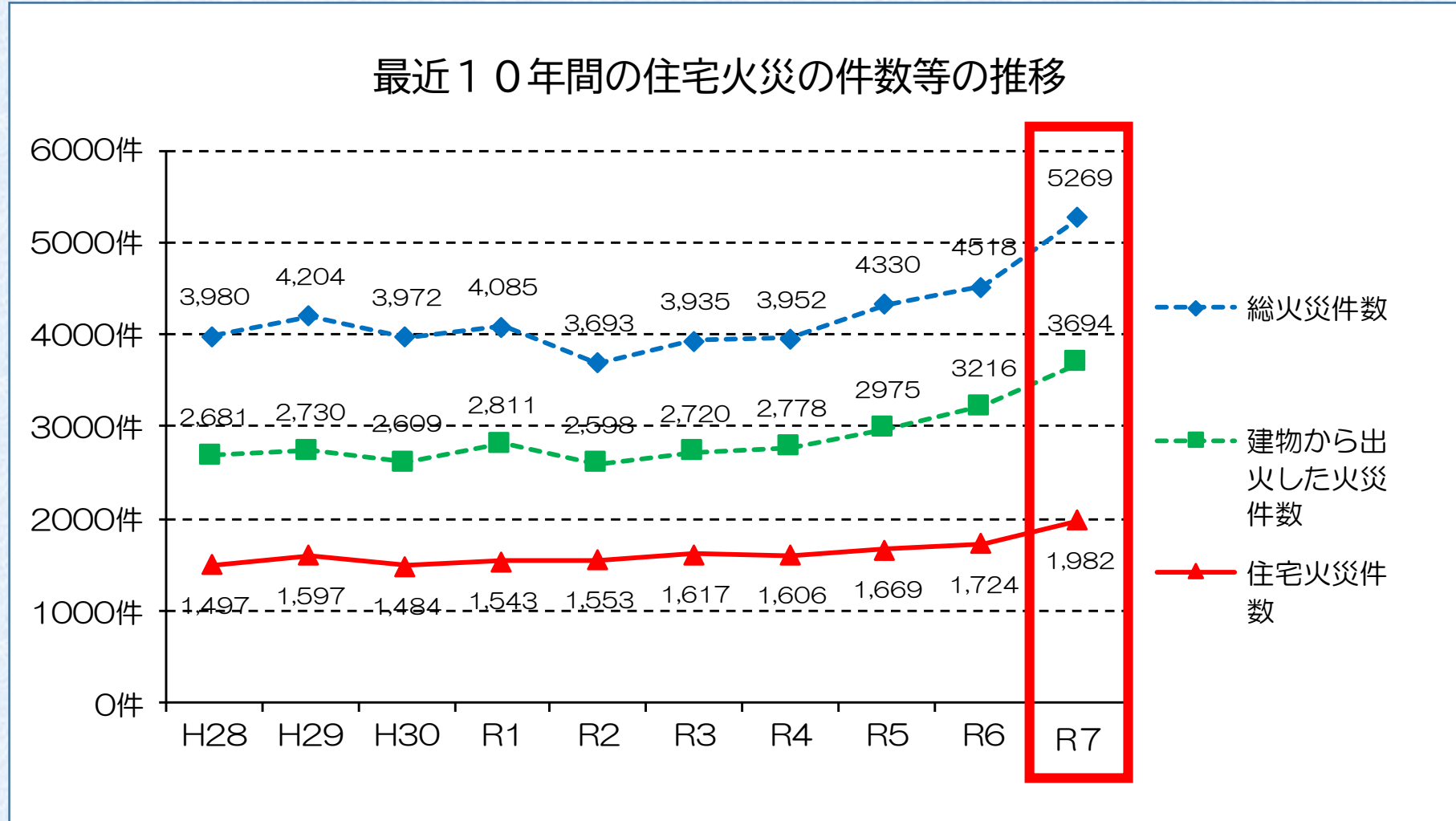
(1) 第1回会議後からの動き

(2) 議事

「第1回会議の意見等を踏まえた
消火器による初期消火率の向上方策について」

令和7年中の火災の状況について（速報値）

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

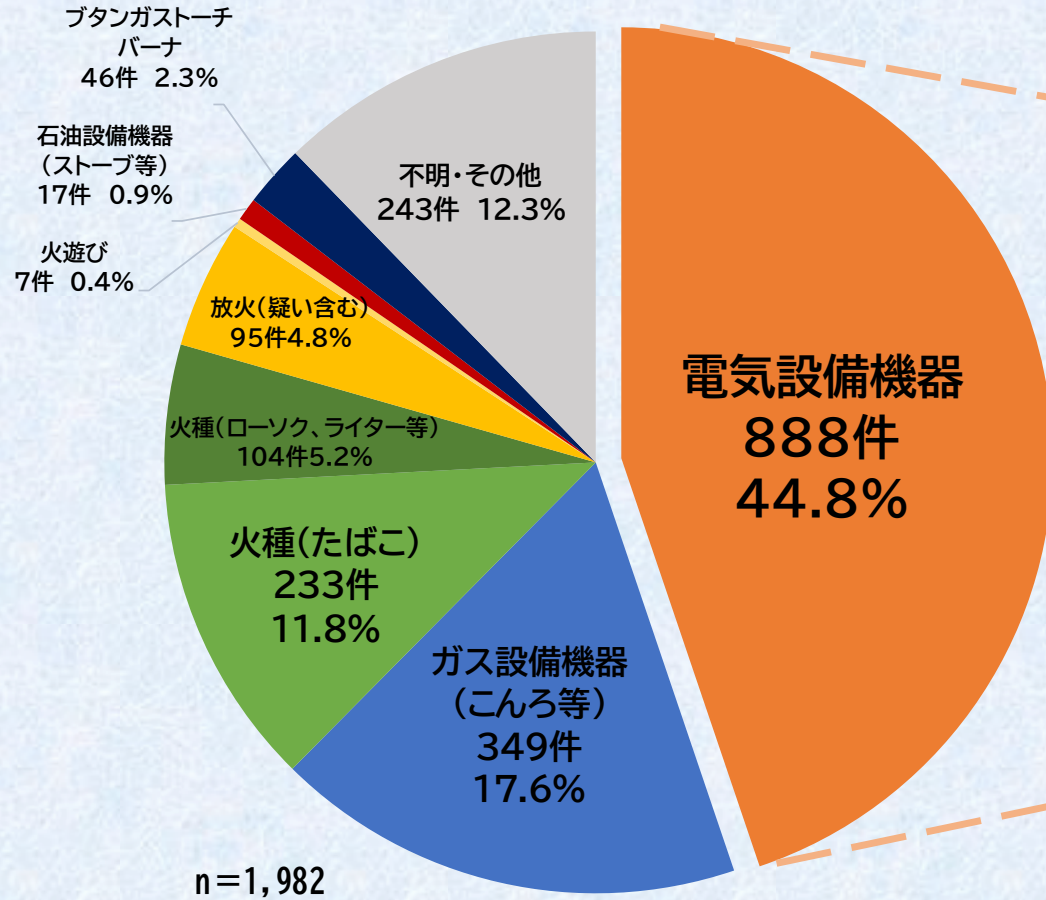


- ◆ 令和7年中の火災件数は、過去10年で最多の件数であった。
- ◆ 住宅火災件数は、1,982件あり、令和6年の1,724件から約15%増加している

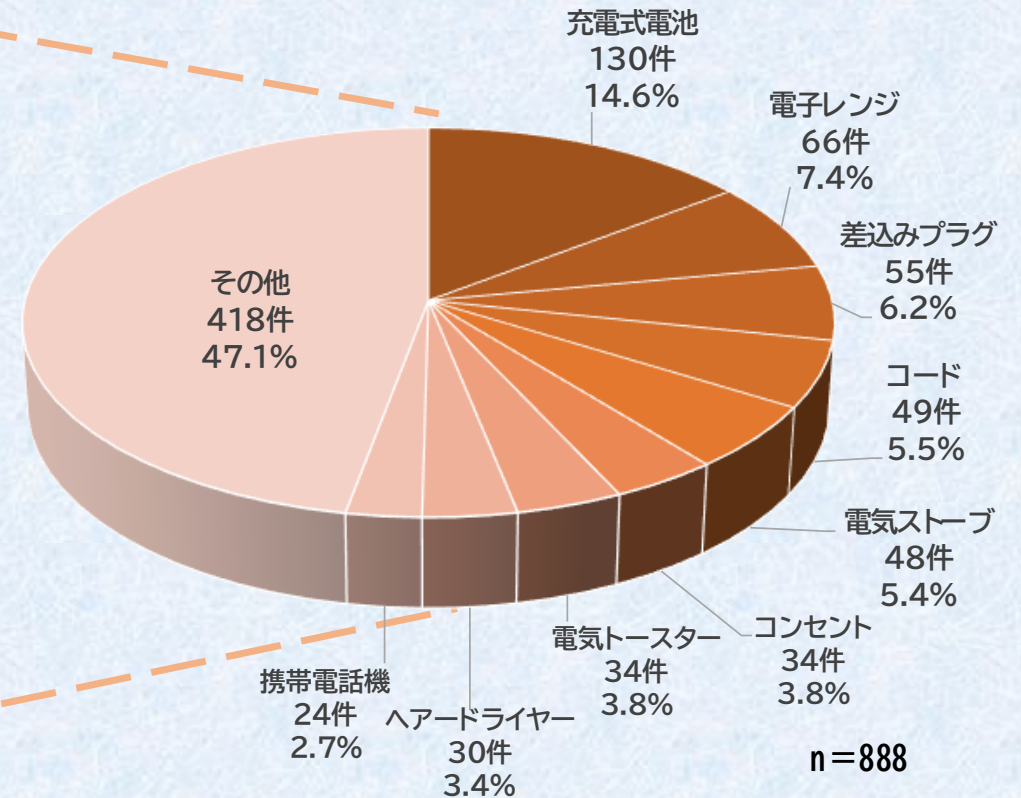
住宅火災における出火原因の状況

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

住宅火災の出火原因内訳



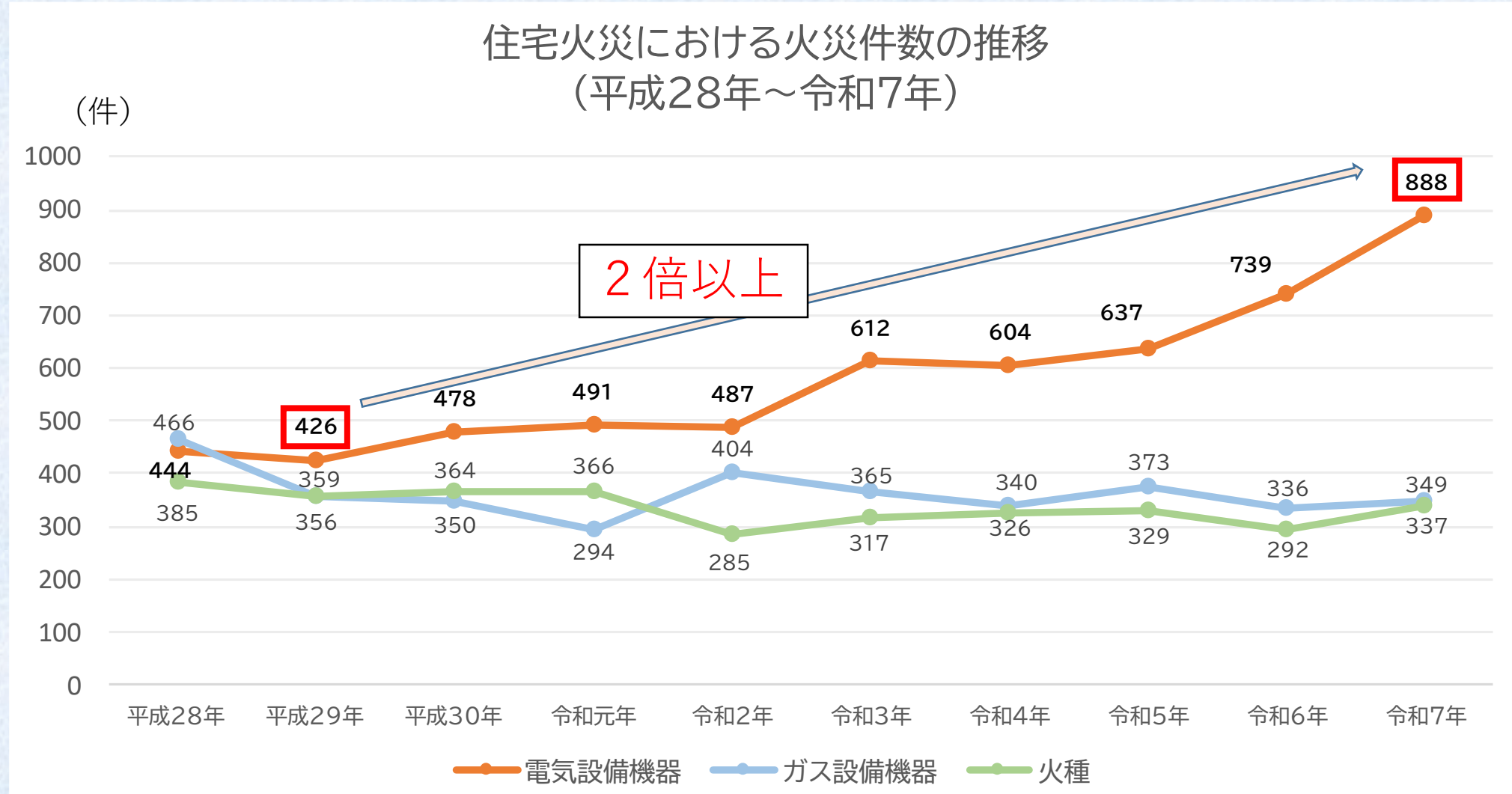
電気設備機器内訳



- ◆ 住宅火災における出火原因別に見ていくと、電気設備機器が最も多い
- ◆ 電気設備機器の発火源別では、充電式電池・電子レンジ・差し込みプラグ・コードの順に多い

令和7年中の電気設備機器の火災の状況

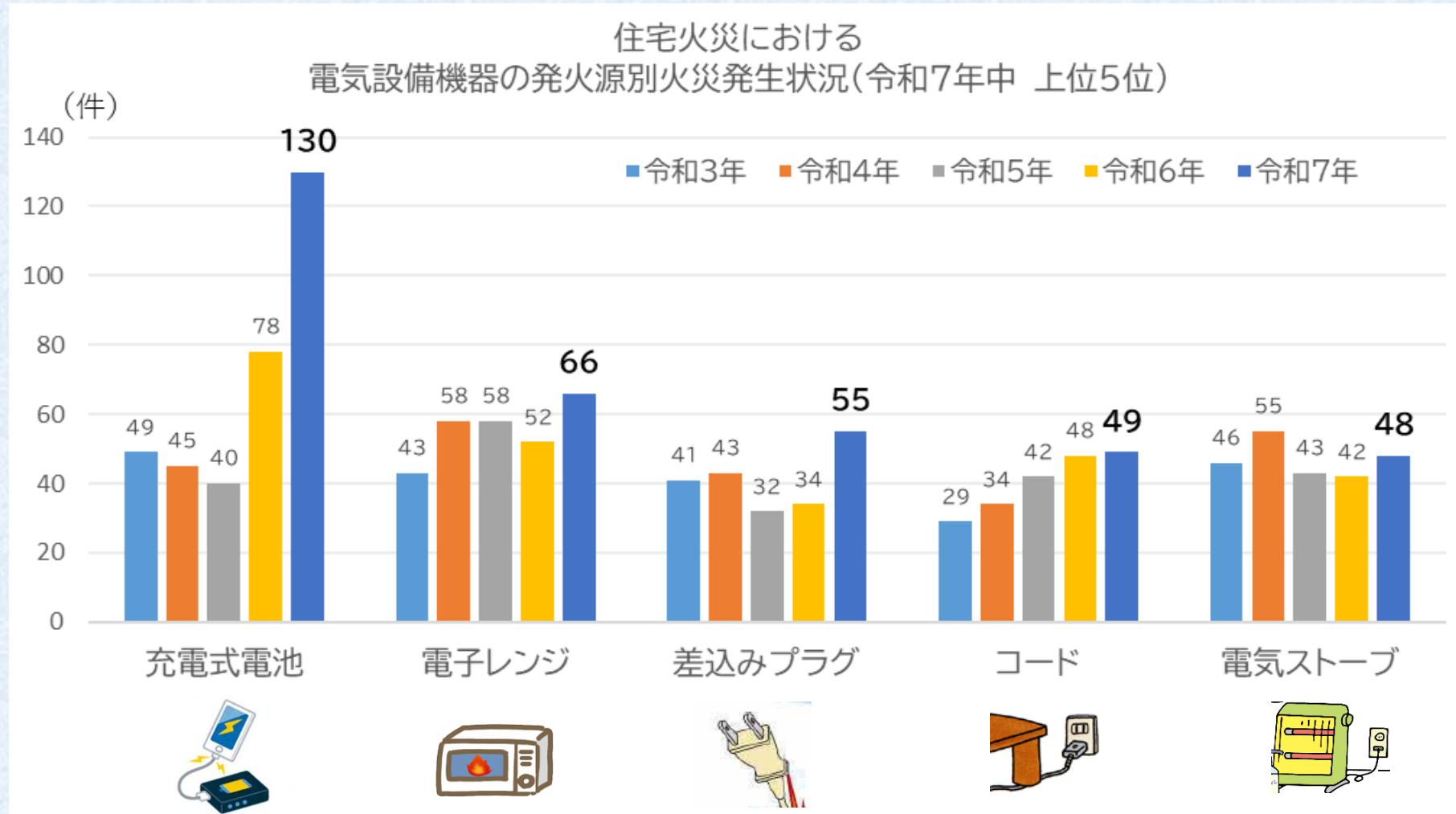
※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値



◆ 住宅火災における電気設備機器の火災は近年増加傾向にあり、令和7年は過去最高記録を更新した。

令和7年中の電気設備機器の火災の状況

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

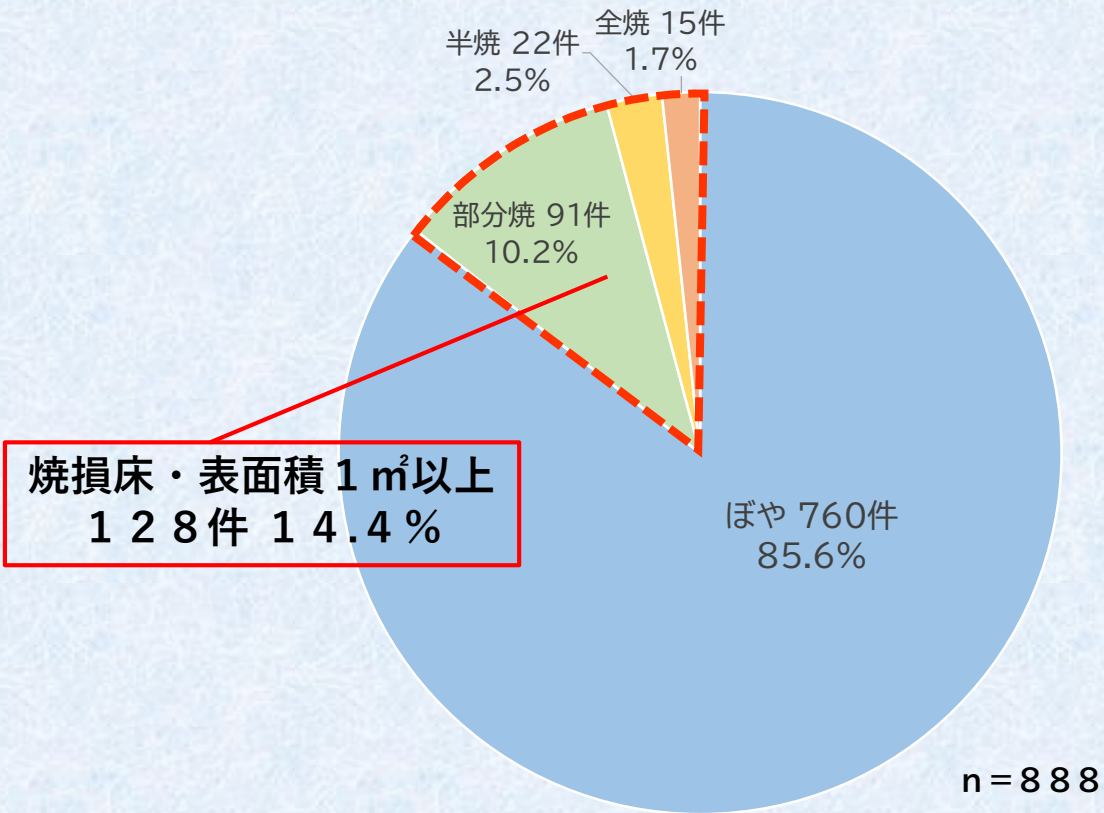


◆ 令和7年中における発火原因別では、モバイルバッテリー等の充電式電池が全電気設備機器火災の約15%を占めており、発生件数が急増している。

令和7年中の電気設備機器の火災の状況

※令和7年の数値は令和8年1月2日時点速報値

電気設備機器による火災の焼損程度



電気設備機器（発火源別）による焼損程度

発火源	ぼや	部分焼	半焼	全焼	計
充電式電池	103	19	5	3	130
電子レンジ	65	1			66
差込みプラグ	48	3	2	2	55
コード	24	16	5	4	49
電気ストーブ	38	7	1	2	48
コンセント	31	3			34
電気トースター	33	1			34
ヘアードライヤー	30				30
携帯電話機	24				24
その他	364	41	9	4	418
計	760	91	22	15	888

ぼ や：建物10%未満を焼損したもののうち、焼損床面積若しくは焼損表面積が1 m²未満のもの、又は収容物のみを焼損したもの
 部分焼：全焼、半焼及びぼやに該当しないもの
 半 焼：建物の20%以上70%未満を焼損したもの
 全 焼：建物の70%以上が焼損したもの又はこれ未満であっても残存する部分に補修を加えても再使用できないもの

◆ 電気設備機器による火災のうち、85.6%がぼや火災であるが、約15%は焼損床・表面積が1 m²以上発生しているため、過小評価することは危険である。

電気設備機器の火災を防ぐポイント

①充電式電池（リチウムイオン電池等）



- 衝撃を与えない、分解しない
- 燃えやすい物がない場所で充電する
- 指定された充電器を使用する
- 発熱など異常がある場合は使用をやめ、製造業者や販売店に相談する
- 熱がこもりやすい場所での使用は控える



▶万が一火災が発生したら

- 火花や煙が激しく噴出している場合は、近寄らない
- 火花や煙の勢いが収まったら、**大量の水**や**消火器**で消火する
- 大量の水で温度を十分に下げ、安全に配慮し、水没させる
- 119番通報実施

大量の水をかける 水没させる



②電子レンジ



- 冷凍食品などは包装の表示を確認してから加熱する
- 加熱時はその場から離れない
- 周囲に可燃物を置かない
- 加熱時間を長めに設定しない
⇒さつまいもや肉まんなどは、長時間加熱すると急速に燃焼する危険あり

万が一火災が発生したら

- 扉を開けずに**電源遮断**
- **扉を閉めたまま**、庫内の様子確認
※扉を開けると、燃え広がる危険大
- 火が消えなければ、**消火器などを準備**
- 119番通報実施

③差し込みプラグ



コンセント



④コード



- 使っていないプラグは抜いておく
- プラグ、コンセントは**定期的**に掃除する
- コードは家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する
- コードは束ねて使用しない

- 万が一火災が発生したら
- **消火器などを準備** ● 119番通報実施

リチウムイオン電池火災における広報動画の制作

リチウムイオン電池火災対策動画の
広報実績（令和8年1月23日現在）

- 東京消防庁公式X（12月4日投稿）
 - ・表示回数 310万回
 - ・リポスト 4902回
 - ・いいね 9240件
- 東京消防庁YouTube公式チャンネル
 - ・再生回数 4.7万回（11月28日投稿）



動画はこちら



チラシはこちら

- ◆ 近年急増しているリチウムイオン電池に関連する火災の対策動画及びリーフレットを制作
- ◆ 出火防止のポイントや万が一出火した際の対応要領など包括的な内容

第1回会議からの動き

【まとめ】

- 住宅火災件数は増加傾向にあり、令和7年は過去10年で最多件数となった。
- 出火原因別でみていくと、電気設備機器が約半数を占めている。
- 電気設備機器の火災は、10年前の約2倍となり、令和7年は過去最高記録を更新した。特に充電式電池による火災が急増している。
- 焼損程度では、ぼや火災が多数を占めているが、部分焼、半焼、全焼につながる火災も発生しているため、過小評価はできない。
- 充電式電池による火災は社会的関心が高く、注意喚起への反応が大きい。

電気に起因する火災は、誰にでも起こり得る身近な火災である。万が一のために消火器を備え、火災の初期段階で消火し、被害を軽減することが重要となる。

本日の予定

(1) 第1回会議からの動き

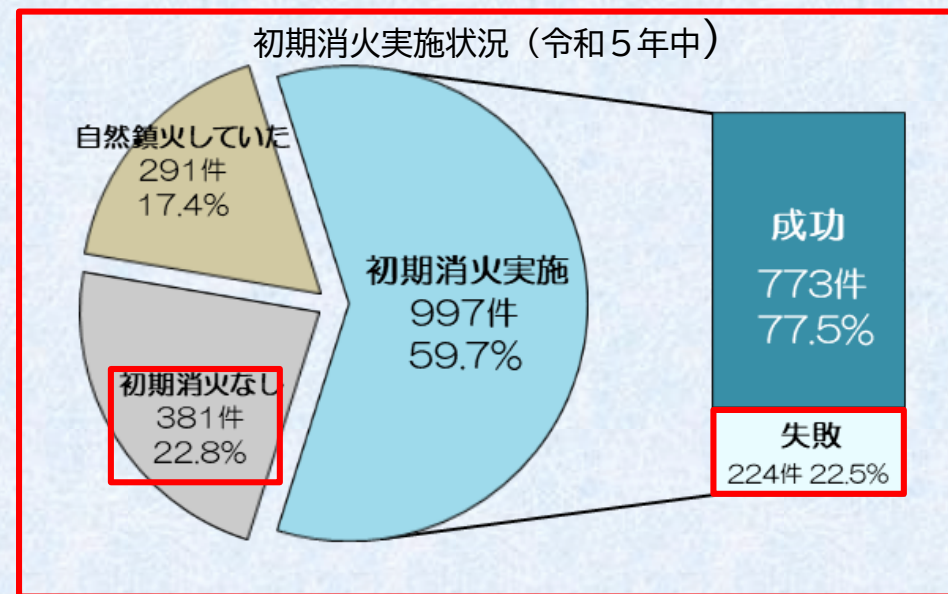
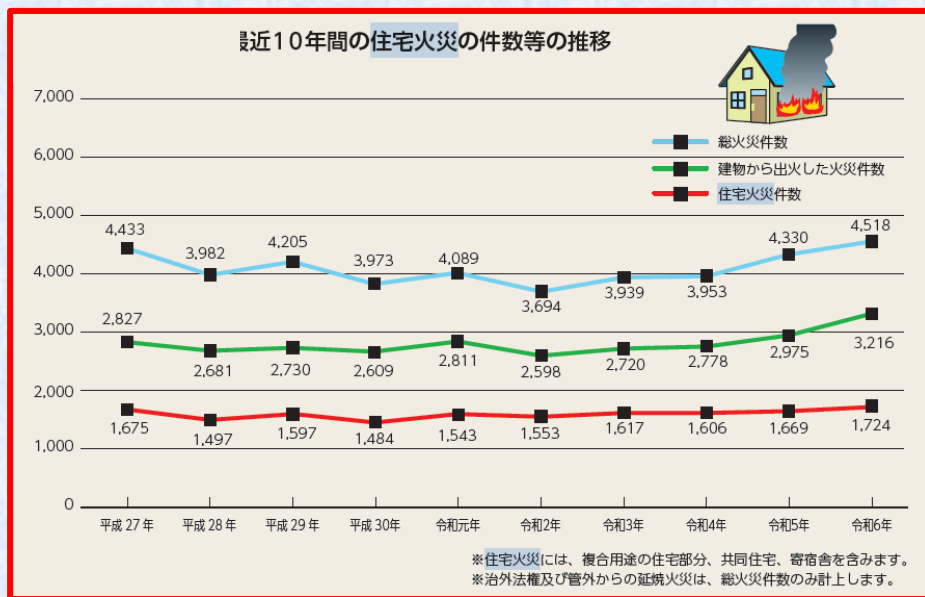
(2) 議事

「第1回会議の意見等を踏まえた
消火器による初期消火率の向上方策について」

第1回の会議内容

【課題】

- ◆住宅火災の件数は、近年増加傾向にあり、今後も増加していく可能性がある。
- ◆住宅火災において、約1/4は初期消火をしていない。
- ◆初期消火を実施した住宅火災の約1/4は初期消火に失敗している。



【目的】

住宅火災における初期消火の実施率、成功率を向上させ、住宅火災による被害軽減を図る。



第1回の会議内容

【初期消火率向上方策】

【平時、震災時を問わず“自らの住宅は自らの手で守る”という防災意識の向上】

※消火器の備えと有事の際には躊躇せず使用する意識付け

①初期消火の重要性が理解できる広報物の制作

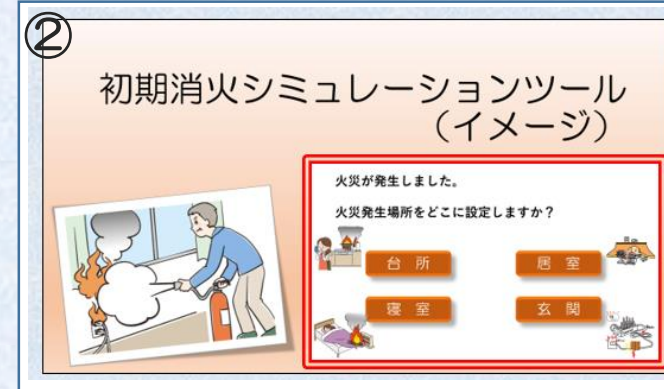
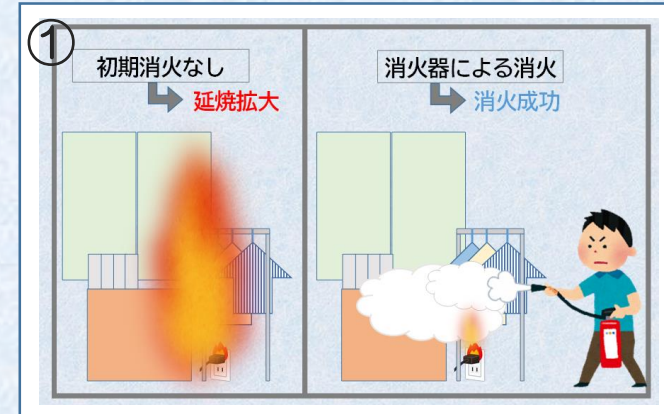
(動画：初期消火有無における比較⇒初期消火の重要性、被害軽減効果)

②(仮称)初期消火シミュレーションツール制作(都民が初期消火を意識付け・イメージできる)

知識(使い方を知る)×訓練(体験)×心の準備(意識)

③報道機関、関係機関と連携した消火器具使用の有効性及び奏効事例の周知

(TV・SNS・インターネット等)



初期消火率の向上方策に向けてのご意見

初期消火向上に向けたご意見（第1回）			改善のポイントと対策	
大分類	中分類	小分類	改善ポイント	対策
知識・技術	使用方法	<ul style="list-style-type: none"> 消火器の使用方法が分からない 実火災で使用出来るか不安がある 	<ul style="list-style-type: none"> 消火器の使用方法を学び、繰り返し訓練する 身になる訓練と日常生活の中で想定訓練を行う 	① ②
	消火能力	<ul style="list-style-type: none"> 消火器を使用していいか分からない 消火と避難の判断基準が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> 消火器の使用の判断基準を明確にする 避難と消火の判断基準の広報を強化する 	②
	使用後の処理 (清掃・廃棄)	<ul style="list-style-type: none"> 使用した後の汚れの処理方法が分からない 使用後の消火器の破棄方法が分からない 期限を迎えた消火器の交換方法が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> 使用後の処理方法を明確にする 廃棄方法を明確にする 	② ③
世代	若年層	<ul style="list-style-type: none"> 消火器と関わる機会が少ない (消火器を販売している場所がわからない・知らない) 	<ul style="list-style-type: none"> 若者が使う情報発信ツールを活用 	① ③
広報	機会	<ul style="list-style-type: none"> タイミングを捉えた広報を行う必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 機を失しないよう事前に制作物を制作しておき 事案が発生した時に活用できるように準備する 	① ③
	発信内容	<ul style="list-style-type: none"> 受け手に興味がないと伝わらない 初期消火をするのとしないのでは被害金額が違う 	<ul style="list-style-type: none"> 受け手が何に興味があるか行政側が理解し、そこを入り口にして、伝えたい方向に持っていく ①の動画に内容を盛り込んでいく。 	① ③
その他	火災への意識 火災の状況	<ul style="list-style-type: none"> そもそも他人事で自分が起こすとは思っていない 電気火災が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> 充電式電池（モバイルバッテリー等）など社会の関心が高いことを分析し、有効活用する 	① ③

対策①：初期消火の重要性が理解できる広報物

対策②（仮称）初期消火シミュレーションツール

対策③：報道機関・関係機関との連携


第1回会議結果を踏まえた対策の検討

【①初期消火の重要性が理解できる広報物（動画）の制作】 ※15秒から30秒程度の動画を想定

【導入】

火災発生
(モバイルバッテリー)

あなたは
どうしますか？



ポイント

- ◆ 関心が高い出火原因を選定
→火災は意図せず身近で発生
することを知る
- ◆ 視聴者を巻き込む問いかけ
→自分事と捉えさせる

【展開】

パターンA→慌てて放置
・炎が急速に拡大し、
部屋が焼失




パターンB→消火器を使う
・冷静な初期消火により
炎が収束

放置
→ 延焼拡大

¥
損害額400万円
焼損面積18㎡

消火器による消火
→ 消火成功

¥
損害額120万円
焼損面積6㎡



ポイント

- ◆ 初期消火の有無による比較実験映像
→初期消火の必要性を理解する
→消火器の効果を理解する
→日頃の備えの必要性を理解する

あなたの行動が
被害を最小限に
とどめるかもしれません。



持っていますか？
マイ消火器
知っていますか？
消火器の使い方

ポイント

- ◆ 都民への訴求
→初期消火を行う意識の醸成
→消火器を備える意識の醸成
→消火器の使い方を理解する

【結論】

知っていますか？
消火器の使い方



- 1 安全ピンを引き抜く
- 2 ホースの先を持ち火元に向ける
- 3 レバーを強く握る

対策の検討

【②（仮称）初期消火シミュレーションツールの制作】

初期消火シミュレーションツール (イメージ)




火災が発生しました。
火災発生場所をどこに設定しますか？

台所 居室
寝室 玄関

ポイント①
通報要領を学ぶ

火災を通報しましょう。



火事ですか？ 救急ですか？
住所を教えてください。
目標となるものは何ですか？

火災時
何が燃えていますか？
逃げ遅れた人はいますか？

救急時
誰がどうしましたか？
状況を教えてください。

ポイント②
初期消火の目安を確認する

初期消火の判断、目安は？




天井

腰高 背丈 天井 窓から火が出るまで


ポイント③
種類・有効期限・火災との位置関係

消火器がどこにあるか確認しましょう。 (住戸内に消火器がない場合は、努めて マイ消火器を設置しましょう。)




住戸内に消火器がある場合は、有効期限や
消火器の種類を確認しましょう。

消火器の使い方を確認しましょう



ノズルを仰げる ピンを抜く シバーを握る

初期消火成功！



持っていますか？
マイ消火器

対策の検討

【③報道機関、関係機関と連携した消火器具使用の有効性及び奏効事例の周知】

◆消火器や住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具などを使用したことにより、消火器の有効性や初期消火に成功した奏効事例等を活用し、ホームページや当庁広報課を通じて適切に報道機関や関係機関等へ情報提供を行う。

また、報道機関が取り上げやすい火災などの事案が発生した時にニュース等にあわせた情報発信に繋げることで消火器具の有効性を周知していく。



ポイント

- ◆ 既存の広報物（出火防止対策シリーズ）の他に、初期消火に特化した消火器パンフレットや住宅用火災警報器などの防災機器事例集を作成
- ◆ 報道機関等が火災に関する情報発信を行う際の資料として活用してもらえるよう準備しておく

今後のスケジュール

推進会議の結果を踏まえた初期消火率向上方策について

令和7年		令和8年			
11月	12月	1月	2月	3月	4月
●第1回推進会議	第1回の結果を踏まえ、 向上方策の検討・調整		●第2回推進会議	第2回の結果を踏まえ 方策の調整・決定	★4月以降 効果的な普及啓発